

生活科におけるテレビ教材の効果的活用

——夏を楽しもう『ふねをうかべよう』の効果的な指導——

足利市立梁田小学校 町田敏夫・久保敏邦

1 はじめに

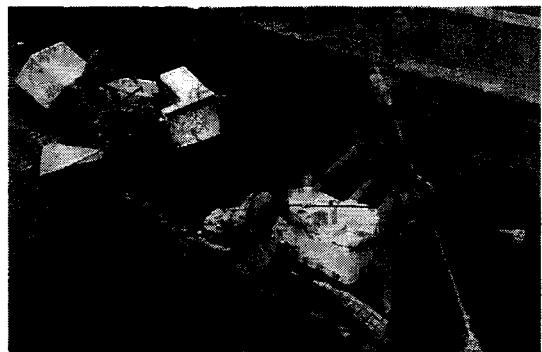
生活科の目標は、具体的な活動や体験を通して、自分と身近な社会や自然とかかわりに関心を持ち、自分自身の生活について考えることにある。その過程において、生活上必要な習慣や技能を身につけさせて、自立への基礎を養うことである。従って、生活科では活動するとか体験するとか直接体験が重要である。テレビ視聴をするとか本で調べるとかの間接体験は二次的な位置づけになる。しかし、場合によっては、直接体験する前に、テレビ視聴をしておいたり、本で調べておくことが、活動や体験を意欲的にしたり主体的にするきっかけになることもあるし、効果的なこともある。

ここでは、大単元「夏を楽しもう」のうち、小単元「ふねをうかべよう」において、テレビ視聴を取り入れて、材料の準備の仕方を効率的にしたり、船の作り方を理解することによって子供たちを意欲的・主体的に活動させた一実践例を紹介する。

2 生活科とテレビ視聴

子供たちは、テレビ視聴が大好きで、テレビ教材を活用した学習には興味を持ってのぞんでいる。そこで、今年度から完全実施された生活科でテレビ視聴することが、どのように効果があるのか、「ふねをうかべよう」の授業を通して、考察を試みた。

生活科では、具体的な活動や体験を通して実施して行くことが重要な要素になっている。けれども昨年度、試行的に行った生活科の授業では、新しい活動に対して興味や関心を示したが、具体的なイメージがつかめなかつたことが、多かった。具体的なイメージがつかめれば、活動が生き生きと展開されるのではないかと考え、テレビで「とびだせたんけんたい（ふねをうかべよう）」を視聴することを学習活動に取り入れた。



3 実践例

- (1) 単元名 ふねをうかべよう
- (2) 目 標 身近な材料を使い、自分たちにも乗れる大きな船を作りにみんなで挑戦し、誤行錯誤しながら、みんなで協力することや工夫する楽しさを体験する。

(3) 児童の実態と計画への位置づけ

生活科の授業は子供たち全員が楽しみにしている。けれども、いつも材料が不足がちで活動が途中で止ってしまう傾向が見られる。

「ふねをうかべよう」は、プールが利用できるように、7月の「夏を楽しもう」の単元の中に位置づけをした。

(4) 展開計画

○事前 テレビ視聴と計画 1時間 教室

とびだせたんけんたい

『ふねをうかべよう』

○事中 ①船つくり 3時間 教室

②船うかべ 1. 5時間 プール

○事後感想と反省 0. 5時間 教室



(5) 展開1 「テレビ視聴」

具 体 目 標	学 習 活 動	時 間	指 導 上 の 留 意 点
○ 夏を楽しくするのにはどんなことをするのがよいか考える。	1. このごろあたたかくなってきたので、どんなことをしたいか話し合う。	5分	○ 前時とのつながりから導入し、今回のテレビ視聴の観点を指導する。
○ 自分なりにイメージを形成しながら、テレビ視聴ができる。	2. テレビ視聴をする。 NHK 3 チャンネル、2年生活科 「とびだせたんけんたい」 『ふねをうかべよう』 《内容は授業記録の中に》	15分	○ 児童の反応やつぶやきに注意しながら、ともにテレビ視聴する。
○ 視聴後の感想を持ち、つくりたい船の設計図が書ける。	3. テレビ視聴後に感想や気づいたことを発表する。 4. グループにわかつて、作りたい船の設計図を書く。	15分	○ 児童一人一人の考えを大切にし、多様な考えを賞賛して学習意欲を高めるようにする。
○ 準備する材料がわかり、集める分担ができる。	5. 船を作るのに必要な材料や道具を調べる。 6. 船を作る材料を準備する計画を立て、分担をする。	10分	○ テレビの内容にとらわれず自由に発想するように指導をする。 ○ 準備の分担では無理のないように配慮する。

○ 授業記録（テレビ視聴15分、計画話し合い30分）

T このごろ暑くなってきましたね。みなさんは、どんなことがしたいですか。

C すいせい。虫とり。魚つり。船作り。（いろいろな意見が出る。）

T 今日の勉強は「ふねをつくろう」です。作ったらどうする。

C プールに浮かべる。乗ってみる。

T プールに浮かべるには、どんな船にするかな。

C （考え込んでしまって意見が出ない。）

T 今日は、ちょうど「ふねをつくろう」というテレビがありますから、材料はなにが必要か。
どうすればよいか考えながら、テレビをしっかり見ましょう。

C （テレビ視聴がしやすいように席換えをする。）

T じゃあ、テレビをかけますよ。

<児童と教師テレビ視聴>

子供たちは、それぞれ自分なり
のイメージを持ちながら、熱心
にテレビ視聴をする。

T さあ、テレビを見ましたね。どん
なお話だったでしょう。

材料は、どうでしょう。これだけ
で、いいですか。

（数種の材料を見せながら聞く）

C はっぽうスチロールとかあったは
うがいい。

C ガムテープとかあるといい。
あと、セロテープも……

◇テレビの放送内容 『ふねをつくろう』 15分

① 探検隊は沖縄に行き、その学校の児童とバナナなど
大きな葉で船を作る。人も乗れる船を作ろうと考えが
進む。

② みんなが乗れる船を作るには材料は何がよいか。近
所の店・家・電気店とグループで協力して、材料を見
つけに行く。

③ 船を作り、プールで浮かべてみると、簡単に壊れ
しまう。

④ グループの全員で協力し、工夫しながら船を補強
し、やっとみんなが乗れる船が出来上った。

⑤ プールで船を浮かべ、それに乗って楽しく船の競争
をすることが出来た。

T 作るのは、明日やろうというのでは無理だね。あと何を集めてくればよいですか。

C 板。あと牛乳パック。

C 竹とか。ひも。

T それでは、全員で1個の船を作りますか。

C 一人で、1個の船を作る。

T 一人でと決めた人は一人で作ってもいいですよ。好きな人と組んでする人はそうでしょうね。

C (2~4人程度のグループに分かれ、8グループになった。仲間はずれはなかった。)

※児童は設計図を書いたり、材料を話し合って決めている。

※教師は各グループを巡視して、相談にのったり、指導したりする。

C そうか。

C これでいいよ。

C かぶと号にするか。

C これどうやって書いたん。

※児童は、グループに分かれて、話し合いを続ける。

C 先生。これ、わかんねや。

T テレビでは、どうでしたか。思い出して、ごらん。



T はい。いいかな、だいたい話がまとまりましたか。

T 家の人に説明するのに話が見えないとこまるので連絡帳に書いて下さい。

C まって。連絡帳持ってくる。

T 用意は、いいかな。（板書する。）

みんなは、勉強しているけど、家の人は見られるかも知れません。見てもらうと、話がよくわかるでしょう。

NHKチャンネル 2年 生活科

とびだせたんけんたい

『ふねをうかべよう』

6日 木曜日 11:00~11:15

9日 木曜日 9:30~ 9:45

T お父さんもお母さんも、おつとめしているうちは？

C ビデオ！

T じゃあ。終わりにしましょう。決まらないグループは休み時間に相談しておいて下さい。

子供たちは、テレビを見ながら、もうすっかり船に乗っている気分でいたようです。更にテレビ視聴したことによって、作りたい船のイメージがはっきりしたり、材料の不足やどのような遊び方がしたいかなど、子供たちは、いろいろ気付いた。

そして、一緒に作りたい友達と集まって、船の設計図を書いたり、材料を書き出したりする活動がとても活発になった。

なお、材料集めについて父母の協力が必要なため、同じ番組の放送予定日をプリントして配布したところ、全家庭でこの番組を見たそうです。。ビデオにとって見た家庭での親と子の共通の話題にもなったし、父母の材料集めによく協力をしてくれた。

(6) 展開2、製作活動

製作の段階では、先生の「作りましょう」の言葉を聞くか聞かないうちに、子供たちは大きな歓声を上げ、製作に取りかかりました。

導入段階でテレビ視聴をしていたために、製作するもののイメージがはっきりしていたこと、更に製作順序がよくわかっていたので、子供たちは意欲満々で主体的に活動できた。

○授業記録（製作活動3時間）

T 今日は船を作ります。船を作る準備をしてきましたか。

C してきた。（多くの児童が答える。）

T 船の作り方はテレビで見たし、この前の時に考えたので知っていますね。

C 知ってる。

T それでは、お友達と仲よくはじめましょう。

C やったあ！

C ようし。○○ちゃん！



先生の話が終わるか終わらないうちに、子供たちは目を輝かせ喜んで、はっぽうスチロールの箱やプラスチックの空容器を取りに行く。グループにもどると、すぐに箱をガムテープでつなげて船を作り始めた。

C ○○ちゃん。ほれ、かしてあげる。

C これを横につけよう。テープでとめて。

グループによっては新聞紙をまとめて筒にして帆柱を立てたりしている。先生はグループをまわって相談にのっている。子供たちは船の作り方をよく心得ているので、熱心に作っている。友達と協力しながら楽しい時間が過ぎていき、休み時間も忘れるほどであった。

(7) 展開3 船を浮かべて遊ぶ活動 ○授業記録 (1.5時間)

C わっしょ。 わっしょ。(大きな声をあげながら船を持ってプールサイドに集合する。)

T 船。こわさないで持ってこられましたか。
しづかに浮かべていいですよ。

C これ。乗れるかな。(水に浮かしている。)

C 先生！先生！きゃあ。

各グループとも船を浮かべて乗りはじめる。

工夫しながら乗ろうとしているが、なかなかうまくいかない。友達に助けてもらってやっと乗れて「よいしょ。よいしょ。」と船をこぐ姿も見られるようになった。

やっと乗ったような格好で浮いているグループもあれば、2~3人で組んで一人ずつうまく乗っているグループもある。「先生。ほら」と楽しそうに船をこぐグループもある。

修理をしながら乗っていたが40~50分乗った後は、船はいくつもに壊れてしまった。まわりにつけたプラスチックの容器やはっぱうスチロールが、プールのあちこちに浮くような状態になってしまった。

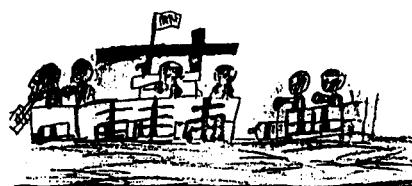
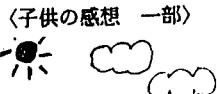
(8) 展開4 表現活動

船は壊れてしまったけれど、子供たちには楽しい思い出が残りました。子供たちは楽しかったプールでの船遊びの活動を思い浮かべながら、
とてもうれしそうな顔で、その時の様を、絵や文にまとめていた。

プールで遊んだ時のビデオを再生すると、「あの時、○○ちゃんがぶつかったから……」「○○回こげた。」「○○ちゃんが手伝ってくれた。」「こわれたけど乗れた。」とか、いろいろな話がでてきた。楽しかった様子をよく表現していた。

絵のほとんどが、プールで遊んでいるものであったが、文の中には船をつくる時の苦労や工夫について書いたものもあった。

《右の図は、その時の児童の作品の一例》



（右の図は、その時の児童の作品の一例）

4 研究の成果と問題点

生活科におけるテレビ教材の効果的活用を目標にして研究をしたが、わずかな時間の研究実践であり、同様の研究もこれで2回目ということもあって研究不足です。明確な成果も問題点もないが、この実践を通して気づいたことを一応まとめてみた。

(1) 成果

ア 生活科の導入時にテレビ視聴を組み入れたところ、その後に続く計画や準備、製作の活動についてよく理解され、子供たちは意欲的に取りかかることができた。

イ 船を作つて遊ぶ活動の具体的なイメージをはっきりつかむことができた。

ウ 自分たちが集めた材料が不足していることに気づき、更に多くの必要な材料を集めることができた。

エ テレビで見た船をヒントにして、自分たちの作りたい船のイメージをふくらませることができた。

オ 活動全体の流れをつかむことができ、すぐに船作りの活動に取りかかることができた。

カ 活動全体として興味や意欲が高まり、全過程を通して、のびのびと楽しく活動することができた。

キ 同じ番組を家庭でも視聴してもらうため、放送内容や時刻をプリントして配布したところ、すべての家で視聴した。家庭での親子共通の話題にもなったし、材料や用具集めでは家庭の協力を得ることができた。

以上、成果として7点を述べたが、生活科のねらいを達成するためにもテレビ視聴は効果的であったと思う。しかし、細かく見ていくといつかの問題点がある。

(2) 問題点

ア 材料はたくさん集まつたが、種類はテレビに出たものと同じものしか集まらなかつた。

イ 作りたい船のイメージがテレビで見たものと同じものに固まつてしまい、それから抜け出られなかつたグループもあつた。

ウ テレビ視聴をする場合に、学校の生活科の計画と放送番組がずれてしまうことがある。

今回の「ふねをうかべよう」は季節的にもよかつたし、本校の生活科の年間計画にも、ほぼ合っていた。一般的にはずれてしまうことも考えられるので、その場合にはビデオ録画しておいたり、学校の計画を修正しておくなど、事前の計画や準備などが非常に大切になってくる。

以上、問題点として3点述べたが、テレビ視聴をどのように取り入れるか。学習内容とテレビ

の放送内容を事前に十分に検討しておくことが、テレビ教材を効果的に活用するには大切であると思う。

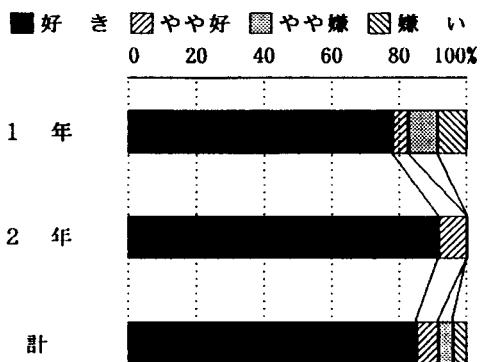
この生活科の授業を終了してから、各教科の好き嫌いを調査したところ、1・2年生では右のグラフのようになった。

2年生では、生活科が好き91.5%、やや好き8.5%、やや嫌いは1名もいなかった。

2年生に1番好きな教科を調べたところ、12%の子供が生活科をあげ、体育・図画工作に次いで3位であった。

生活科が好きなのは、活動や体験など中心になっているからで、テレビ視聴とは直接関係がないと思うが、低学年の子供たちは生活科が好きである。その生活科を効果的にするためにテレビ視聴もおおいに役立っている。

生活



評

生活科は、具体的な活動や体験を通して学習する教科であり、低学年の児童が体全体で学ぶところにその特徴がある。この活動や体験は、生活科の単なる方法だけではなく目標であって、内容でもある。そのためには、児童一人一人が目的意識をもって意欲的に活動を展開していくところに、意味をもつものである。

本研究、小単元「ふねをうかべよう」の実践では、製作するふねのイメージをもたせたり、材料集めの方向性をつかませたり、同じ番組を父母に試聴していただいて家庭との連携を図ったりするために単元の指導計画の中にTVの活用を位置づけたのである。

のことによって、児童は生き生きとふねの製作に取り組み、具体的な活動や体験を充実させ、プールに浮かべることが出来たと報告している。

この学習で、児童は自分のよさに気づき、こんなことができたという成就感を味わうことができた。そして、自分たちで作ったふねで遊ぶ楽しさを実感したのである。

最後に、「作りたいふねのイメージが、TVで見たものと同じものにかたまってしまった。」等の問題点も指摘されたが、この研究は生活科の学習でTVの効果的な活用のあり方を示唆してくれた貴重な研究である。

この実践へのご努力には深く敬意を表し、あわせて今後の一層のご活躍を祈念し評と致します。